

対象校No. 789

注4

学校コード F126310107617

注3

設置年度 令和 8年度

計画の区分： 学部の学科の設置

注1

**届出**

注2

立命館大学 デザイン・アート学部 デザイン・アート学科

**【届出】 設置に係る設置計画履行状況報告書**  
(改正後大学設置基準適用)

学校法人立命館  
令和8年5月1日現在

作成担当者

担当部局(課)名

衣笠・朱雀キャンパス学  
部・研究科事務室デザイ  
ン・アート学部・デザイ  
ン・アート学研究科教育課  
程支援

職名・氏名

電話番号

075-466-3003 (内線: 511-2321)

(夜間)

075-466-3003 (内線: 511-2321)

e-mail

da2026@st.ritsumeit.ac.jp

(注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に

( )書きにて、設置時の旧名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部 □□学科

(旧名称: ◇◇学科 (令和◇◇年度より学科名称変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

- ・「〇〇大学 △△学部 □□学科」
- ・「〇〇短期大学 △△学科」
- ・「〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻(〇〇課程)」
- ・「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」

3 学校コードについては、以下URLを確認の上、該当番号を記載してください。

なお、該当がない場合は、本番号は学校基本調査での「学校コード」と同様の番号ですので、当該番号を記載してください。

[https://www.mext.go.jp/b\\_menu/toukei/mext\\_01087.html](https://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/mext_01087.html)

4 対象校No.については、「【別紙】令和8年度AC報告書提出対象学科等.pdf」より、

該当番号を記載してください。

# 目次

デザイン・アート学部

＜デザイン・アート学科＞	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	3
2. 授業科目の概要	7
3. 施設・設備の整備状況、経費	15
4. 既設大学等の状況	16
5. 教育研究実施組織の状況	18
6. 附帯事項等に対する履行状況等	50
7. その他全般的事項	51

# 1 調査対象大学等の概要等

## (1) 設置者

学校法人立命館

## (2) 大学名

立命館大学

## (3) 調査対象大学等の位置

〒603-8577

京都府京都市北区等持院北町56番地の1

(京都府京都市中京区西ノ京東柵尾町8番地)

(注)・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を( )書きで記入してください。

・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

## (4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(モリシマ トモミ) 森島 朋三 (平成29年7月)		
学長	(ナカタニ ヨシオ) 仲谷 善雄 (平成31年1月)		
学部長	(アカマ リョウ) 赤間 亮 (令和8年4月)		
学科長等	(ヤエガシ カザル) 八重樫 文 (令和8年4月)		

(注)・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を

( )書きで記入してください。

(例) 令和7年度に報告する内容 → (7)

令和8年度に報告する内容 → (8)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載（昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正）するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注)・当該調査対象の学部学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。  
 ・なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」)のほか、それらのコースや専攻単位でも記載したものを、別ファイルにて提出してください。  
 ・様式は、令和3年度開設の4年制の学科が完成年度を越えて報告する場合(令和8年度までの6年間)ですが、設置計画履行状況等調査の対象期間が7年を越え、様式に変更が必要な場合には、別途ご連絡ください。  
 ・留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「留学」の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。  
 ・短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画				学生募集の停止について	備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員		
デザイン・アート学部 デザイン・アート学科 学士(デザイン・7ト)	美術関係	4年	180人	2年次 0人 3年次 0人 4年次 0人	720人	-	

- (注)・定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を( )書きで記入してください。  
 ・基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。  
 ・「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1)又は(その2の2))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。  
 ・学生募集停止を予定している場合は、「学生募集の停止について」で「新規入学者を募集停止予定」を選択するとともに、「備考」に「令和〇年度から学生募集停止(予定)」と記載してください。(学生募集停止を予定していない場合は「-」を選択。)

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

対象年度 区分	令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度		令和8年度		春季入学以外の 学期区分について	収容定員 充足率	収容定員 充足率 (控除後)	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期				
A 入学定員	人 -	人 (-)	人 -	人 (-)	人 -	人 (-)	人 -	人 (-)	人 -	人 (-)	人 180	人 (-)	-	0.99倍	一倍	
志願者数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1,474	-	春季入学以外 の入学時期と 入学定員内訳			
受験者数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1,412	-				
合格者数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	284	-				
B 入学者数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	179	-				
入学定員超過率 B/A	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.99	-				

(注)・報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)

- ・調査対象学部等の開設年度から報告年度まで記入してください。なお、開設年度以前は「-」を記入してください。
- ・( )内には、**編入学の状況について外数で**記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、(( ))書きとするなど、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
- ・転入学生は記入しないでください。
- ・[ ]内には、**留学生の状況について内数で**記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
- ・学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。
- ・「入学定員超過率」については、**各年度の春季入学とその他の学期を合計した入学定員、入学者数で算出**してください。  
なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
- ・報告年度に春季入学以外の学期区分の設定を予定している場合は、「春季入学以外の学期区分について」「春季入学以外の学期区分を設ける予定」を選択するとともに、下欄に、入学時期と入学定員の内訳(予定を含む)を記載してください。(春季入学以外の学期区分の設定を予定していない場合は「-」を選択。)
- ・「収容定員充足率」には、開設年度から報告年度までの報告年度における5月1日現在の収容定員数に対する学生数の割合を記入してください。  
算出に当たっては、「大学の設置等に係る提出書類の作成の手引(令和9年度開設用) IV.33収容定員の充足状況」をご確認ください。  
なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。また、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度から起算した修業年限に相当する期間の収容定員充足率を記載してください。
- ・「収容定員充足率(控除後)」には、「収容定員充足率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校」の設置等に係る認可の基準」第1条第2項により修業年限超過者を控除した場合及び附則第2項及び第4項を適用した場合の控除及び適用後の「収容定員充足率」を記入してください。  
なお、「収容定員充足率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除及び適用がない場合には、「-」としてください。
- ・「(5) - ② 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等」の「平均入学定員超過率」及び「収容定員充足率」は、「4 既設大学等の状況」AC対象学部学科等の倍率と一致しますので、留意して計算してください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度		令和8年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	179	-	
	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ 12 ]	[ - ]	
	( - )	( - )	( - )	( - )	( - )	( - )	( - )	( - )	( - )	( - )	( - )	( - )	
2年次			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
			[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	
			( - )	( - )	( - )	( - )	( - )	( - )	( - )	( - )	( - )	( - )	
3年次					-	-	-	-	-	-	-	-	
					[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	
					( - )	( - )	( - )	( - )	( - )	( - )	( - )	( - )	
4年次							-	-	-	-	-	-	
							[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	
							( - )	( - )	( - )	( - )	( - )	( - )	
計	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	179	-	
	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ 12 ]	[ - ]	
	( - )	( - )	( - )	( - )	( - )	( - )	( - )	( - )	( - )	( - )	( - )	( - )	

(注)・報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)

- ・[ ]内には、**留学生の状況について、内数で**記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
- ・( )内には、**留年者の状況について、内数で**記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
- ・編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
- ・学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。
- ・「計」については、**各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数**を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[ ]書き)
			入学した年度	退学者数		
					うち留学生数	
令和3年度	- 人	- 人	令和3年度	- 人	- 人	
令和4年度	- 人	- 人	令和3年度	- 人	- 人	
			令和4年度	- 人	- 人	
令和5年度	- 人	- 人	令和3年度	- 人	- 人	
			令和4年度	- 人	- 人	
			令和5年度	- 人	- 人	
令和6年度	- 人	- 人	令和3年度	- 人	- 人	
			令和4年度	- 人	- 人	
			令和5年度	- 人	- 人	
			令和6年度	- 人	- 人	
令和7年度	- 人	- 人	令和3年度	- 人	- 人	
			令和4年度	- 人	- 人	
			令和5年度	- 人	- 人	
			令和6年度	- 人	- 人	
			令和7年度	- 人	- 人	
令和8年度	179 人	0 人	令和3年度	- 人	- 人	
			令和4年度	- 人	- 人	
			令和5年度	- 人	- 人	
			令和6年度	- 人	- 人	
			令和7年度	- 人	- 人	
			令和8年度	0 人	0 人	
合計		0 人		0 人	0 人	

(注)・数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)

- ・各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。
- ・内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・在学者数、退学者数には編入学生や転入学生、転科生も含めて記入してください。
- ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「修学意欲の低下(○人)」というように、その人数も含めて記入してください。

(記入項目例)・修学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学  
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【令和3年度】

$$\frac{\text{令和3年度の退学者数(a)}}{\text{令和3年度の在学者数(a+b)}} = \frac{-}{\#VALUE!} = \boxed{-} \%$$

【令和4年度】

$$\frac{\text{令和4年度の退学者数(a)}}{\text{令和4年度の在学者数(a+b)}} = \frac{-}{\#VALUE!} = \boxed{-} \%$$

【令和5年度】

$$\frac{\text{令和5年度の退学者数(a)}}{\text{令和5年度の在学者数(a+b)}} = \frac{-}{\#VALUE!} = \boxed{-} \%$$

【令和6年度】

$$\frac{\text{令和6年度の退学者数(a)}}{\text{令和6年度の在学者数(a+b)}} = \frac{-}{\#VALUE!} = \boxed{-} \%$$

【令和7年度】

$$\frac{\text{令和7年度の退学者数(a)}}{\text{令和7年度の在学者数(a+b)}} = \frac{-}{\#VALUE!} = \boxed{-} \%$$

【令和8年度】

$$\frac{\text{令和8年度の退学者数(a)}}{\text{令和8年度の在学者数(a+b)}} = \frac{0}{179} = \boxed{0} \%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。





科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数	基幹教員等の配置					科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数	基幹教員等の配置										
				必修	選択	自由	教員	講師					助手	必修	選択	自由	教員	講師	助手				
教養科目	企業と社会	1・2後	2							企業と社会	1・2前	2											
	現代日本の政治	1・2前・後	2							現代日本の政治	1・2前・後	2									2		
	現代の国際関係と日本	1・2前	2							現代の国際関係と日本	1・2後	2									1		
	日本経済概説	1・2後	2							日本経済概説	1・2後	2									1		
	現代の世界経済	1・2後	2							現代の世界経済	1・2後	2									1		
	現代の経営	1・2前	2							現代の経営	1・2前・後	2									1	2	
	社会と福祉	1・2後	2							社会と福祉	1・2後	2										1	
	ソーシャルデザイン論	1・2前・後	2							ソーシャルデザイン論	1・2前・後	2										2	
	(留)日本の社会・政治	1・2後	2							(留)日本の社会・政治	1・2後	2										1	
	(留)日本の経済・経営	1・2前	2							(留)日本の経済・経営	1・2前	2										1	
	エリアスタディ入門	1・2後	2							エリアスタディ入門	1・2後	2										1	
	新しい日本史像	1・2前	2							新しい日本史像	1・2後	2										1	
	中国の国家と社会	1・2後	2							中国の国家と社会	1・2後	2										1	
	東アジアと朝鮮半島	1・2前	2							東アジアと朝鮮半島	1・2前	2										1	
	ヨーロッパの歴史	1・2前	2							ヨーロッパの歴史	1・2前	2										1	
	アメリカの社会と文化	1・2前	2							アメリカの社会と文化	1・2後	2										1	
	イスラム世界の多様性	1・2前	2							イスラム世界の多様性	1・2前	2										1	
	科学的な見方・考え方	1・2前	2							科学的な見方・考え方	1・2前	2										1	
	宇宙科学	1・2後	2							宇宙科学	1・2前	2										2	
	地球科学	1・2前	2							地球科学	1・2前	2										1	
	生命科学(分子と生命)	1・2前・後	2							生命科学(分子と生命)	1・2前・後	2										1	
	生命科学(生物と生態系)	1・2前・後	2							生命科学(生物と生態系)	1・2前・後	2										1	
	材料と化学	1・2前	2							材料と化学	1・2前	2										2	
	現代環境論	1・2後	2							現代環境論	1・2後	2										1	
	科学と技術の歴史	1・2前	2							科学と技術の歴史	1・2後	2										1	
	生命科学と倫理	1・2前	2							生命科学と倫理	1・2前	2										1	
	近現代の科学技術	1・2後	2							近現代の科学技術	1・2後	2										2	
	(留)日本の自然・科学技術	1・2後	2							(留)日本の自然・科学技術	1・2後	2										2	
	数理の世界	1・2後	2							数理の世界	1・2前	2										1	
	情報の数理	1・2後	2							情報の数理	1・2前	2										1	
	情報科学	1・2前	2							情報科学	1・2前	2										1	
	情報技術と社会	1・2前	2							情報技術と社会	1・2前	2										1	
	統計学	1・2後	2							統計学	1・2前・後	2										1	
	データサイエンス・AI基礎	1・2前・後	2							データサイエンス・AI基礎	1・2前・後	2										1	
	データエンジニアリング基礎	1・2前・後	2							データエンジニアリング基礎	1・2前・後	2										1	
	Liberal Arts Seminar	1・2前・後	2							Liberal Arts Seminar	1・2前・後	2										1	6
	Introduction to Law	1・2前・後	2							Introduction to Law	1・2前・後	2										1	
	Modern World History	1・2前・後	2							Modern World History	1・2前・後	2										1	
	Japan and the West	1・2前・後	2							Japan and the West	1・2前・後	2										1	
	Introduction to Economics	1・2前・後	2							Introduction to Economics	1・2前・後	2										2	
	Introduction to Linguistics	1・2前・後	2							Introduction to Linguistics	1・2前・後	2										1	
	Introduction to Anthropology	1・2前・後	2							Introduction to Anthropology	1・2前・後	2										1	
	Introduction to the United Nations	1・2前・後	2							Introduction to the United Nations	1・2前・後	2										1	
	Introduction to Peace Studies	1・2前・後	2							Introduction to Peace Studies	1・2前・後	2										2	
	Introduction to Gender Studies	1・2前・後	2							Introduction to Gender Studies	1・2前・後	2										1	
Introduction to Computational Linguistics	1・2後	2							Introduction to Computational Linguistics	1・2後	2										1		
History of Computing	1・2後	2							History of Computing	1・2後	2										1		
Digital Archives: Applications of ICT to the Humanities	1・2後	2							Digital Archives: Applications of ICT to the Humanities	1・2後	2										1		
Understanding Language	1・2後	2							Understanding Language	1・2後	2										2		
Computers in Education	1・2後	2							Computers in Education	1・2後	2										1		
Language in Politics	1・2後	2							Language in Politics	1・2後	2										1		
Introductory Course to Climate Change and Global Warming	1・2前	2							Introductory Course to Climate Change and Global Warming	1・2前	2										1		
Introductory Course to International Project Development	1・2前	2							Introductory Course to International Project Development	1・2前	2										1		
Understanding Visual Culture	1・2前・後	2							Understanding Visual Culture	1・2前・後	2										1		
Introduction to Food Culture	1・2後	2							Introduction to Food Culture	1・2後	2										1		
Cross Border Policy Issues	1・2後	2							Cross Border Policy Issues	1・2後	2										1		
Introduction to Global Justice	1・2前	2							Introduction to Global Justice	1・2前	2										1		
Foundations of Data Science and AI	1・2前	2							Foundations of Data Science and AI	1・2前	2										1		
Foundations of Data Engineering	1・2後	2							Foundations of Data Engineering	1・2後	2										1		
Cross-cultural Encounters 1	1・2前・後	2							Cross-cultural Encounters 1	1・2前・後	2										5		
Cross-cultural Encounters 2	1・2前・後	2							Cross-cultural Encounters 2	1・2前・後	2										3		
Cross-cultural Studies	1・2後	2							Cross-cultural Studies	1・2後	2										1		
Cross-cultural Seminar	1・2前	2							Cross-cultural Seminar	1・2前	2										1		
Non-verbal Communication	1・2前	2							Non-verbal Communication	1・2前	2										1		
Academic Skills 1	1・2前・後	2							Academic Skills 1	1・2前・後	2										1		
Academic Skills 2	1・2前・後	2							Academic Skills 2	1・2前・後	2										2		
University of Hawaii Program	2・3後	2							University of Hawaii Program	2・3後	2										1		
グローバル社会の体験と理解	1・2前・後	2							グローバル社会の体験と理解	1・2前・後	2										5		
Intensive Language Workshop	1・2前・後	2							Intensive Language Workshop	1・2前・後	2										6		
Language for Academic Communication	1・2前・後	2							Language for Academic Communication	1・2前・後	2										1		
Global Project-Based Learning	1・2前・後	2							Global Project-Based Learning	1・2後	2										3		
Area Study I	1・2前・後	2							Area Study I	1・2前・後	2										1		
Area Study II	1・2前・後	4							Area Study II	1・2前	4										1		
Global Study	1・2前・後	4							Global Study	1・2前・後	4										2		
Academic Communication(Online Learning)	1・2前	2							Academic Communication(Online Learning)	1・2前	2										1		
Area Study(Online Learning)	1・2前	2							Area Study(Online Learning)	1・2前	2										1		
学びとキャリア	1・2前	2							学びとキャリア	1・2前	2										1		
仕事とキャリア	2・3前	2							仕事とキャリア	2・3前	2										1		
コーオプ演習(理論)	2・3通	2							コーオプ演習(理論)	2・3通	2										1		
コーオプ演習(実践)	2・3後	2							コーオプ演習(実践)	2・3後	2										1		

科目区分	授業科目の名称	配当年度	単位数	基幹教員等の配置						単位 数	科目 区分	授業科目の名称	配当年度	単位数	基幹教員等の配置						単位 数	科目 区分	
				必修	選択	自由	教員	准教員	講師						助教	必修	選択	自由	教員	准教員			講師
教養科目	現代社会とボランティア	1・2前・後	2							1	教養科目	現代社会とボランティア	1・2前・後	2							1		
	シチズンシップ・スタディーズ	2・3後	2							1		シチズンシップ・スタディーズ	2・3後	2							1		
	スポーツの歴史と発展	1・2前・後	2							1		スポーツの歴史と発展	1・2前・後	2								2	
	スポーツと現代社会	1・2前・後	2							1		スポーツと現代社会	1・2前・後	2								2	
	スポーツのサイエンス	1・2前	2							1		スポーツのサイエンス	1・2前・後	2								2	
	現代人とヘルスケア	1・2後	2							1		現代人とヘルスケア	1・2前	2								1	
	スポーツ方法実習Ⅰ	1・2前	1							1		スポーツ方法実習Ⅰ	1・2前	1								0	
	スポーツ方法実習Ⅱ	1・2後	1							1		スポーツ方法実習Ⅱ	1・2後	1								10	
	教養ゼミナール	1・2前・後	2							1		教養ゼミナール	1・2前・後	2			4						64
	異文化間テーマ演習	1・2後	2							1		異文化間テーマ演習	1・2後	2								1	
超領域リベラルアーツ	3・4前・後	2							1	超領域リベラルアーツ	3・4前・後	2								1			
小計(130科目)	—	—	0	262	0	0	0	0	0	103	小計(130科目)	—	—	0	262	0	4	1	0	1	0	239	
学芸員課程科目	生涯学習概論	2・3前	2							1	学芸員課程科目	生涯学習概論	2・3前	2							1		
	博物館概論	2・3後	2							1		博物館概論	2・3後	2							1		
	博物館経営論	2・3前	2							1		博物館経営論	2・3前	2							1		
	博物館資料論	2・3後	2							1		博物館資料論	2・3後	2							1		
	博物館資料保存論	2・3前	2							1		博物館資料保存論	2・3前	2							1		
	博物館展示論	2・3後	2							1		博物館展示論	2・3後	2							1		
	博物館教育論	2・3前	2							1		博物館教育論	2・3前	2							1		
	博物館情報・メディア論	2・3後	2							1		博物館情報・メディア論	2・3後	2							1		
	博物館・学内実習	3前・後	2							1		博物館・学内実習	3前・後	2							1		
	博物館・館園実習	4通	1		1					1		博物館・館園実習	4通	1		1					1		
小計(10科目)	—	0	0	19	1	0	0	0	0	9	小計(10科目)	—	0	0	19	1	0	0	0	0	9		
合計(248科目)	—	—	40	442	19	16	7	0	2	0	145	合計(248科目)	—	—	40	442	19	16	7	0	2	0	145
卒業要件及び履修方法										卒業要件及び履修方法													
必修科目40単位 (Design in Society科目群を12単位、Design Studies科目群を18単位、Design Language科目群の英語を8単位、卒業研究を2単位)、かつDesign Language科目群の技能習得、知識習得から56単位以上および教養科目から20単位以上を修得し、合計124単位以上を修得すること。 (履修科目の登録の上限: 20単位 (1セメスター)) メディア授業として修得する単位数: 60単位を上限として卒業要件として修得すべき単位に含める。										必修科目40単位 (Design in Society科目群を12単位、Design Studies科目群を18単位、Design Language科目群の英語を8単位、卒業研究を2単位)、かつDesign Language科目群の技能習得、知識習得から56単位以上および教養科目から20単位以上を修得し、合計124単位以上を修得すること。 (履修科目の登録の上限: 20単位 (1セメスター)) メディア授業として修得する単位数: 60単位を上限として卒業要件として修得すべき単位に含める。													

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
  - ・ なお、設置認可時又は届出時、改正前大学設置基準(令和4年10月1日施行前)に基づき、対象学部等を設置している場合、改正後大学設置基準等(令和4年10月1日施行)の適用以前については、改正前様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
  - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る届出書作成の手引」の「教育課程等の概要」を参照してください。
  - ・ 「基幹教員等の配置」欄は、大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は、「専任教員等の配置」してください。
  - ・ 「基幹教員等の配置」欄の「基幹教員以外の教員(助手を除く)」は、大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は、「専任教員以外の教員(助手を除く)」としてください。
  - ・ 「認可時又は届出時には設置認可時又は届出時の授業科目全て(「基幹教員(大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は「専任教員」以外の教員(助手を除く) (改正後大学設置基準等の適用以前は兼任、兼担教員)が担当する科目を含む。))を黒字で記入してください。その上で、各年度については、**認可時又は届出時から変更となっている箇所は赤字**としてください。
  - ・ なお、設置認可時又は届出時、改正前大学設置基準等(令和4年10月1日施行前)に基づき、対象学部等を設置している場合、「認可時又は届出時の「主要授業科目」欄は削除し、「基幹教員等の配置」欄は「専任教員等の配置」、「基幹教員以外の教員(助手を除く)」欄は「兼任・兼担」としてください。その上で、各年度については、「基幹教員(大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は「専任教員」)の数」は、認可時又は届出時の「専任教員」数の比較において変更となっている箇所、「基幹教員以外の教員(助手を除く)」は、認可時又は届出時の「兼任・兼担」数との比較において変更となっている箇所を**赤字**としてください。
  - ・ (専任教員から基幹教員に変更したことをもって赤字とする必要はありません。)
  - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
  - ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度との差を記入してください。
  - ・ 不要な年度(令和7年度開校以前は令和6年度以前)の表は適宜削除してください。
  - ・ (2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)
  - ・ 専門職大学等の場合、「実務、実習又は実技による授業科目」には「[※]」、「臨床実務実習」による授業科目には【臨】、「連携実務実習」による授業科目には【連】を授業科目の名称の右側に記入してください。
  - ・ 指定規則の改正により、新旧がキョウラムを並行して実施している場合は、旧がキョウラムについても記載してください。その場合は、新がキョウラムを全て記載し、最後に記載欄を助記し、年度ごとに記載してください。新旧がある年度については、その別がわかるように各年度の右側に(新)又は(旧)と過記してください。新旧が異なる年度については、(例: 記載欄)【認可時又は届出時】→【令和8年度】(新)→【令和7年度】(新)→【令和6年度】→【令和5年度】→【令和4年度】(旧)→【令和3年度】(旧)

【令和8年度】

・担当教員変更により、「デザイン学」の基幹教員等の配置を「基幹教員 教授5、基幹教員 准教授3」から「基幹教員 教授4、基幹教員 准教授4」に変更。
・担当教員変更により、「デザイン学」の基幹教員等の配置を「基幹教員 教授4、基幹教員 准教授3」から「基幹教員 教授5、基幹教員 准教授3」に変更。
・教員の移籍および担当教員変更により、「英語P1」の基幹教員等の配置を「基幹教員以外の教員4」から「基幹教員 教授1、基幹教員以外の教員2」に変更。
・教員の移籍および担当教員変更により、「英語P2」の基幹教員等の配置を「基幹教員以外の教員4」から「基幹教員 教授1、基幹教員以外の教員2」に変更。
・教員の移籍および担当教員変更により、「英語P3」の基幹教員等の配置を「基幹教員以外の教員4」から「基幹教員 教授1、基幹教員以外の教員2」に変更。
・教員の移籍および担当教員変更により、「英語P4」の基幹教員等の配置を「基幹教員以外の教員4」から「基幹教員 教授1、基幹教員以外の教員2」に変更。
・担当教員変更により、「アート・コミュニケーション」の基幹教員等の配置を「基幹教員 教授1」から「基幹教員以外の教員1」に変更。
・担当教員変更により、「デザイン・アートのためのプログラミング」の基幹教員等の配置を「基幹教員 助教授1」から「基幹教員 教授1、基幹教員 助教1、基幹教員以外の教員2」に変更。
・担当教員変更により、「デジタルアート表現基礎（立体造形）」の基幹教員等の配置を「基幹教員 教授1」から「基幹教員 助教1、基幹教員以外の教員1」に変更。
・担当教員変更の追加により、「デジタルアート表現基礎（平面）」の基幹教員等の配置を「基幹教員 助教1、基幹教員 助教1、基幹教員以外の教員1」に変更。
・担当教員変更の追加により、「デジタルアート表現基礎（造形）」の基幹教員等の配置を「基幹教員 助教1、基幹教員 助教1、基幹教員以外の教員1」に変更。
・担当教員変更により、「デジタルアート表現基礎（造形）」の基幹教員等の配置を「基幹教員 准教授1、基幹教員以外の教員1」から「基幹教員以外の教員2」に変更。
・担当教員変更により、「デジタルアート表現基礎（造形）」の基幹教員等の配置を「基幹教員 准教授1、基幹教員以外の教員1」から「基幹教員以外の教員2」に変更。
・担当教員変更の追加により、「図解・伝統文化論」の基幹教員等の配置を「基幹教員 教授1」から「基幹教員 教授1、基幹教員以外の教員1」に変更。
・担当教員変更の追加により、「図解・伝統文化論」の基幹教員等の配置を「基幹教員 教授1」から「基幹教員 教授1、基幹教員以外の教員1」に変更。
・担当教員変更の追加により、「図解・伝統文化論」の基幹教員等の配置を「基幹教員 教授1」から「基幹教員 教授1、基幹教員 助教1、基幹教員以外の教員2」に変更。
・担当教員変更の追加により、「図解・伝統文化論」の基幹教員等の配置を「基幹教員 教授1」から「基幹教員 教授1、基幹教員 助教1、基幹教員以外の教員1」に変更。
・担当教員変更の追加により、「デザイン理論」の基幹教員等の配置を「基幹教員 教授1」から「基幹教員 教授1、基幹教員以外の教員1」に変更。
・通正クラス数の追加により、「日本の近現代と立命館」の基幹教員等の配置を「基幹教員以外の教員1」から、「基幹教員以外の教員3」に変更。
・通正クラス数の追加により、「ピア・サポート論」の基幹教員等の配置を「基幹教員以外の教員1」から、「基幹教員以外の教員3」に変更。
・通正クラス数の追加により、「ジェンダーとダイバーシティ」の基幹教員等の配置を「基幹教員以外の教員1」から、「基幹教員以外の教員2」に変更。
・通正クラス数の追加により、「市民と政治」の基幹教員等の配置を「基幹教員以外の教員1」から、「基幹教員以外の教員2」に変更。
・通正クラス数の追加により、「日本国憲法」の基幹教員等の配置を「基幹教員以外の教員1」から、「基幹教員以外の教員3」に変更。
・通正クラス数の追加により、「歴史の形成」の基幹教員等の配置を「基幹教員以外の教員1」から、「基幹教員以外の教員2」に変更。
・通正クラス数の追加により、「現代の経緯」の基幹教員等の配置を「基幹教員以外の教員1」から、「基幹教員以外の教員2」に変更。
・通正クラス数の追加により、「戦争の歴史と思想」の基幹教員等の配置を「基幹教員以外の教員1」から、「基幹教員以外の教員3」に変更。
・通正クラス数の追加により、「哲学と人間」の基幹教員等の配置を「基幹教員以外の教員1」から、「基幹教員以外の教員2」に変更。
・通正クラス数の追加により、「心理学入門」の基幹教員等の配置を「基幹教員以外の教員1」から、「基幹教員以外の教員2」に変更。
・通正クラス数の追加により、「メディア・芸術論」の基幹教員等の配置を「基幹教員以外の教員1」から、「基幹教員以外の教員2」に変更。
・通正クラス数の追加により、「文化人類学入門」の基幹教員等の配置を「基幹教員以外の教員1」から、「基幹教員以外の教員3」に変更。
・通正クラス数の追加により、「文学と社会」の基幹教員等の配置を「基幹教員以外の教員1」から、「基幹教員以外の教員3」に変更。
・通正クラス数の追加により、「現代の教育」の基幹教員等の配置を「基幹教員以外の教員1」から、「基幹教員以外の教員2」に変更。
・通正クラス数の追加により、「世界の言語と文化」の基幹教員等の配置を「基幹教員以外の教員1」から、「基幹教員以外の教員2」に変更。
・通正クラス数の追加により、「観光学」の基幹教員等の配置を「基幹教員以外の教員1」から、「基幹教員以外の教員2」に変更。
・通正クラス数の追加により、「京都学」の基幹教員等の配置を「基幹教員以外の教員1」から、「基幹教員以外の教員5」に変更。
・通正クラス数の追加により、「美と芸術の論理」の基幹教員等の配置を「基幹教員以外の教員1」から、「基幹教員以外の教員2」に変更。
・通正クラス数の追加により、「(前) 日本の自然・科学技術」の基幹教員等の配置を「基幹教員以外の教員1」から、「基幹教員以外の教員2」に変更。
・通正クラス数の追加により、「現代日本の政治」の基幹教員等の配置を「基幹教員以外の教員1」から、「基幹教員以外の教員2」に変更。
・通正クラス数の追加により、「現代の経緯」の基幹教員等の配置を「基幹教員以外の教員1」から、「基幹教員(助教)1、基幹教員以外の教員2」に変更。
・通正クラス数の追加により、「グローバル化と国際関係」の基幹教員等の配置を「基幹教員以外の教員1」から、「基幹教員以外の教員2」に変更。
・通正クラス数の追加により、「宇宙科学」の基幹教員等の配置を「基幹教員以外の教員1」から、「基幹教員以外の教員2」に変更。
・通正クラス数の追加により、「材料と化学」の基幹教員等の配置を「基幹教員以外の教員1」から、「基幹教員以外の教員2」に変更。
・通正クラス数の追加により、「近現代の科学技術」の基幹教員等の配置を「基幹教員以外の教員1」から、「基幹教員以外の教員2」に変更。
・通正クラス数の追加により、「(前) 日本の自然・科学技術」の基幹教員等の配置を「基幹教員以外の教員1」から、「基幹教員以外の教員2」に変更。
・通正クラス数の追加により、「Liberal Arts Seminar」の基幹教員等の配置を「基幹教員以外の教員1」から、「基幹教員(教授)1、基幹教員以外の教員8」に変更。
・通正クラス数の追加により、「Introduction to Economics」の基幹教員等の配置を「基幹教員以外の教員1」から、「基幹教員以外の教員2」に変更。
・通正クラス数の追加により、「Introduction to Peace Studies」の基幹教員等の配置を「基幹教員以外の教員1」から、「基幹教員以外の教員2」に変更。
・通正クラス数の追加により、「Understanding Language」の基幹教員等の配置を「基幹教員以外の教員1」から、「基幹教員以外の教員2」に変更。
・通正クラス数の追加により、「Cross-cultural Encounters 1」の基幹教員等の配置を「基幹教員以外の教員1」から、「基幹教員以外の教員5」に変更。
・通正クラス数の追加により、「Cross-cultural Encounters 2」の基幹教員等の配置を「基幹教員以外の教員1」から、「基幹教員以外の教員3」に変更。
・通正クラス数の追加により、「Academic Skills 2」の基幹教員等の配置を「基幹教員以外の教員1」から、「基幹教員以外の教員2」に変更。
・通正クラス数の追加により、「(前) 日本の自然・科学技術」の基幹教員等の配置を「基幹教員以外の教員1」から、「基幹教員以外の教員2」に変更。
・通正クラス数の追加により、「Intensive Language Workshop」の基幹教員等の配置を「基幹教員以外の教員3」から、「基幹教員以外の教員8」に変更。
・通正クラス数の追加により、「Language for Academic Communication」の基幹教員等の配置を「基幹教員以外の教員3」から、「基幹教員以外の教員1」に変更。
・通正クラス数の追加により、「Global Project-Based Learning」の基幹教員等の配置を「基幹教員以外の教員2」から、「基幹教員以外の教員3」に変更。
・通正クラス数の追加により、「Area Study I」の基幹教員等の配置を「基幹教員以外の教員2」から、「基幹教員以外の教員1」に変更。
・通正クラス数の追加により、「Area Study II」の基幹教員等の配置を「基幹教員以外の教員2」から、「基幹教員以外の教員1」に変更。
・通正クラス数の追加により、「スポーツの歴史と発展」の基幹教員等の配置を「基幹教員以外の教員1」から、「基幹教員以外の教員2」に変更。
・通正クラス数の追加により、「スポーツと現代社会」の基幹教員等の配置を「基幹教員以外の教員1」から、「基幹教員以外の教員2」に変更。
・通正クラス数の追加により、「スポーツのサイエンス」の基幹教員等の配置を「基幹教員以外の教員1」から、「基幹教員以外の教員1」に変更。
・通正クラス数の追加により、「スポーツ方法実習Ⅰ」の基幹教員等の配置を「基幹教員以外の教員1」から、「基幹教員以外の教員9」に変更。
・通正クラス数の追加により、「スポーツ方法実習Ⅱ」の基幹教員等の配置を「基幹教員以外の教員1」から、「基幹教員以外の教員10」に変更。
・通正クラス数の追加により、「教養モジュール」の基幹教員等の配置を「基幹教員以外の教員1」から、「基幹教員(教授)4、基幹教員以外の教員64」に変更。
・開講期間の見直しにより、「ジェンダーとダイバーシティ」の開講期間を「1・2前・後」から「1・2後」に変更。
・開講期間の見直しにより、「歴史観の形成」の開講期間を「1・2後」から「1・2前・後」に変更。
・開講期間の見直しにより、「哲学と人間」の開講期間を「1・2後」から「1・2前・後」に変更。
・開講期間の見直しにより、「人性と倫理」の開講期間を「1・2後」から「1・2前」に変更。
・開講期間の見直しにより、「世界と日本の文化」の開講期間を「1・2前」から「1・2後」に変更。
・開講期間の見直しにより、「京都学」の開講期間を「1・2前」から「1・2前・後」に変更。
・開講期間の見直しにより、「美と芸術の論理」の開講期間を「1・2後」から「1・2前・後」に変更。
・開講期間の見直しにより、「現代の国際関係と日本」の開講期間を「1・2前」から「1・2後」に変更。
・開講期間の見直しにより、「現代の経緯」の開講期間を「1・2前」から「1・2前・後」に変更。
・開講期間の見直しにより、「新しい日本史後」の開講期間を「1・2前」から「1・2後」に変更。
・開講期間の見直しにより、「アリアリの社会と文化」の開講期間を「1・2前」から「1・2後」に変更。
・開講期間の見直しにより、「宇宙科学」の開講期間を「1・2後」から「1・2前」に変更。
・開講期間の見直しにより、「科学と技術の歴史」の開講期間を「1・2前」から「1・2後」に変更。
・開講期間の見直しにより、「数現の世界」の開講期間を「1・2後」から「1・2前」に変更。
・開講期間の見直しにより、「確率の数理」の開講期間を「1・2後」から「1・2前」に変更。
・開講期間の見直しにより、「統計学」の開講期間を「1・2後」から「1・2前・後」に変更。
・開講期間の見直しにより、「Global Project-Based Learning」の開講期間を「1・2前・後」から「1・2前」に変更。
・開講期間の見直しにより、「Area Study II」の開講期間を「1・2前・後」から「1・2前」に変更。
・開講期間の見直しにより、「スポーツのサイエンス」の開講期間を「1・2前」から「1・2前・後」に変更。
・開講期間の見直しにより、「現代人とヘルスマネジメント」の開講期間を「1・2後」から「1・2前」に変更。

(注) 2 (1) ① 授業科目表に記入された各年度における変更内容 (配当年度の変更、基幹教員等の配置の変更、主要授業科目の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など) を簡潔書式で記入してください。

変更がない年度は「特」に記入してください。

・ 変更内容には、授業科目の名称開講や廃止については記入しないでください。また、改正後大学設置基準 (令和4年10月1日施行) の適用により、専任教員が基幹教員に変更した場合 (例:「専任教員 教授1」から「基幹教員 教授1」に変更) や、兼任・兼任教員から基幹教員以外の教員に変更した場合 (例:「兼任教員1」から「基幹教員以外の教員1」に変更) については、記入しないでください。

・ 不要な年度 (令和7年度開設であれば令和6年度以前) の表は適宜削除してください。

・ 指定規則の改正により、新旧がチャームを並行して実施している場合は、新旧の変更内容をそれぞれ1つの枠内に記入してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
18 科目	230 科目	0 科目	248 科目	18 科目 [ 0 ]	230 科目 [ 0 ]	0 科目 [ 0 ]	248 科目 [ 0 ]	変更なし

(注)・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[ ] 内に、設置時の計画からの増減を

記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)

- ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、「変更状況」には変更後のカリキュラム（新カリキュラム）の授業科目数及び設置時の計画からの増減を記入するとともに、「備考」に変更前のカリキュラム（旧カリキュラム）の授業科目数と設置時の計画からの増減を記入してください。

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由、代替措置の有無
1						該当なし
2						
3						

(注)・配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入して

ください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。

- ・履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
- ・教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
- ・専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。
- ・該当がない場合は「未開講の理由、代替措置の有無」欄に「該当なし」と記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由、代替措置の有無
1						該当なし
2						
3						

(注)・設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入して

ください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。

- ・教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。
- ・専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。
- ・該当がない場合は「廃止の理由、代替措置の有無」欄に「該当なし」と記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし
------

(注)・授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、

学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{248} = \boxed{0}\%$$

(注)・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

- ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備考			
(1) 校地等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計				
	校舎敷地	1,015,668.85㎡	0㎡	0㎡	1,015,668.85㎡				
	その他	391,596.33㎡	0㎡	0㎡	391,596.33㎡				
	合 計	1,407,265.18㎡	0㎡	0㎡	1,407,265.18㎡				
(2) 校舎	専 用	584,567.75㎡ 580,361.44㎡	0㎡	0㎡	584,567.75㎡ 580,361.44㎡	BKC立命館先端クロス パスイノベーションコ モンズ/ガラスルーツイ ノベーションセンター新 築、衣笠新築予定建物の 確認申請面積確定(8)			
	( 577,580.49㎡)	( 0㎡)	( 0㎡)	( 577,580.49㎡)					
(3) 教室・教員研究室	教 室		1707室 1683室	教員研究室	27室	BKC立命館先端クロス パスイノベーションコ モンズ/ガラスルーツイ ノベーションセンター新 築他(8)			
(4) 図書・設備	新設学部等の 名称	図 書 〔うち外国書〕		学術雑誌 〔うち外国書〕		機械・器具 標本	大学で共用		
		冊	電子図書 〔うち外国書〕	種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕				
	デザイン・ア ート学部	3,621,128 [1,106,739] 3,593,573 [1,095,042] (3,593,573 [1,095,042])	87,739 [66,212] 81,312 [60,545] (81,312 [60,545])	124,078 [76,849] 129,440 [82,367] (129,440 [82,367])	59,920 [59,891] 65,322 [65,298] (65,322 [65,298])	1,019 ( 1019 )		0 ( 0 )	図書の増加は新規購入、 り、学術雑誌(電子 ジャーナルを含む)の減 少は、電子ジャーナルそ のもの契約見直しと、継 続契約中のパッケージに 収載されるタイトル数の 減少による。(8)
	計	3,621,128 [1,106,739] 3,593,573 [1,095,042] (3,593,573 [1,095,042])	87,739 [66,212] 81,312 [60,545] (81,312 [60,545])	124,078 [76,849] 129,440 [82,367] (129,440 [82,367])	59,920 [59,891] 65,322 [65,298] (65,322 [65,298])	1019 ( 1019 )		0 ( 0 )	
(5) スポーツ施設等	スポーツ施設		講堂	厚生補導施設			衣笠充光館改修他(8)		
	2,025.00㎡		836.51㎡	61,208.22㎡ 61,324.81㎡					
(6) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	
		教員1人当り研究費等	1,030千円	1,039千円	図書購入費	1,418,446千円	1,442,159千円	1,476,408千円	
	共同研究費等	72,869千円	73,967千円	設備購入費	1,131,250千円	1,166,097千円	1,189,506千円		
	学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
		1,900千円	1,700千円	1,700千円	1,700千円	— 千円	— 千円		
学生納付金以外の維持方法の概要			手数料収入、寄付金収入及び補助金収入等により維持する。						

(注)・設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)又は(その1の3)に準じて作成してください。

(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び

「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。

・「(4)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には報告年度の5月1日現在の数値を記入してください。

・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、

その理由及び報告年度「(8)」を「備考」に赤字で記入してください。

なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。

・校舎等建物の計画の変更(校舎の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。

・高等専門学校については「(3)教室・教員研究室」欄の「教員研究室」は記載不要です。

・国立大学については「(6)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4 既設大学等の状況

大学の名称		立命館大学						収容定員充足率の7割以下の学科数	1	収容定員充足率15割以上の学科数	0
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	収容定員充足率	収容定員充足率(控除後)	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	備考
	年	人	年次人	人		倍	倍	年度	年度		
法学部	4	720	-	2,880	-	1.07	1.01	-	-	-	
法学科	4	720	-	2,880	学士(法学)	1.07	1.01	-	昭和23年度	京都府京都市北区等持院北町56番地の1	
経済学部	4	760	-	3,040	-	1.08	1.02	-	-	-	
経済学科	4	760	-	3,040	学士(経済学)	1.08	1.02	-	昭和23年度	滋賀県草津市野路東1丁目1番1号	
経営学部	4	795	-	3,180	-	1.08	1.02	-	-	-	
経営学科	4	650	-	2,600	学士(経営学)	1.08	1.03	-	昭和37年度	大阪府茨木市岩倉町2番150号	
国際経営学科	4	145	-	580	学士(経営学)	1.07	1.00	-	平成18年度	同上	
産業社会学部	4	810	-	3,240	-	1.07	1.02	-	-	-	
現代社会学科	4	810	-	3,240	学士(社会学)	1.07	1.02	-	平成19年度	京都府京都市北区等持院北町56番地の1	
現代社会専攻 メディア社会専攻 スポーツ社会専攻 人間福祉専攻	4	760	-	3,040	学士(社会学)	1.08	1.02	-	平成19年度	同上	
子ども社会専攻	4	50	-	200	学士(社会学)	0.95	0.92	-	平成19年度	同上	
文学部	4	1,035	-	4,140	-	1.09	1.03	-	-	-	
人文学科	4	1,035	-	4,140	学士(文学)	1.09	1.03	-	平成16年度	京都府京都市北区等持院北町56番地の1	
理工学部	4	959	3年次46	3,928	-	1.08	1.03	-	-	-	
電気電子工学科	4	134	3年次12	620	学士(工学)	1.15	1.09	-	昭和24年度	滋賀県草津市野路東1丁目1番1号	令和8年度から入学定員変更(154→134)
機械工学科	4	173	3年次10	712	学士(工学)	1.11	1.07	-	昭和24年度	同上	
環境都市工学科	4	166	3年次4	672	学士(工学)	1.03	1.01	-	平成30年度	同上	
ロボティクス学科	4	90	3年次6	372	学士(工学)	1.06	0.99	-	平成8年度	同上	
数理科学科	4	117	-	408	学士(理学)	1.05	1.00	-	平成12年度	同上	令和8年度から入学定員変更(97→117)
物理科学科	4	86	3年次2	348	学士(理学)	1.06	1.01	-	平成12年度	同上	
電子情報工学科	4	102	3年次8	424	学士(工学)	1.10	1.04	-	平成16年度	同上	
建築都市デザイン学科	4	91	3年次4	372	学士(工学)	1.02	0.97	-	平成16年度	同上	
国際関係学部	4	360	-	1,440	-	1.04	0.97	-	-	-	
国際関係学科	4	335	-	1,340	学士(国際関係学)	1.07	0.99	-	昭和63年度	京都府京都市北区等持院北町56番地の1	
7/1カ大学・立命館大学国際連携学科	4	25	-	100	学士(グローバル国際関係学)	0.69	0.69	-	平成30年度	同上	
政策科学部	4	410	-	1,640	-	1.06	1.02	-	-	-	
政策科学科	4	410	-	1,640	学士(政策科学)	1.06	1.02	-	平成6年度	大阪府茨木市岩倉町2番150号	
情報理工学部	4	475	3年次40	1,980	-	1.06	1.00	-	-	-	
情報理工学科	4	475	3年次40	1,980	学士(工学)	1.06	1.00	-	平成29年度	大阪府茨木市岩倉町2番150号	

映像学部	4	240	-	880	-	1.09	1.03	-	-	-	
映像学科	4	240	-	880	学士 (映像学)	1.09	1.03	-	平成19年度	大阪府茨木市岩倉町2番150号 京都府京都市北区等持院北町56番地の1	令和6年度から入学定員変更 (160→240)
薬学部	6	100	-	600	-	1.04	1.01	-	-	-	6年制学科
	4	60	-	240	-	1.08	1.03	-	-	-	4年制学科
薬学科	6	100	-	600	学士 (薬学)	1.04	1.01	-	平成20年度	滋賀県草津市野路東1丁目1番1号	
創薬科学科	4	60	-	240	学士 (薬科学)	1.08	1.03	-	平成27年度	同上	
生命科学部	4	325	-	1,300	-	1.03	1.00	-	-	-	
応用化学科	4	111	-	444	学士 (理学) 学士 (工学)	1.02	0.96	-	平成20年度	滋賀県草津市野路東1丁目1番1号	
生物工学科	4	86	-	344	学士 (工学)	1.05	1.03	-	平成20年度	同上	
生命情報学科	4	64	-	256	学士 (理学) 学士 (工学)	1.07	1.05	-	平成20年度	同上	
生命医科学科	4	64	-	256	学士 (理学)	0.99	0.95	-	平成20年度	同上	
スポーツ健康科学部	4	235	-	940	-	1.09	1.05	-	-	-	
スポーツ健康科学科	4	235	-	940	学士 (スポーツ健康科学)	1.09	1.05	-	平成22年度	滋賀県草津市野路東1丁目1番1号	
総合心理学部	4	310	-	1,150	-	1.07	1.03	-	-	-	
総合心理学科	4	310	-	1,150	学士 (心理学)	1.07	1.03	-	平成28年度	大阪府茨木市岩倉町2番150号	令和8年度から入学定員変更 (280→310)
食マネジメント学部	4	320	-	1,280	-	1.07	1.01	-	-	-	
食マネジメント学科	4	320	-	1,280	学士 (食マネジメント)	1.07	1.01	-	平成30年度	滋賀県草津市野路東1丁目1番1号	
グローバル教養学部	4	100	-	400	-	1.08	1.02	-	-	-	
グローバル教養学科	4	100	-	400	学士 (グローバル教養学)	1.08	1.02	-	平成31年度	大阪府茨木市岩倉町2番150号	
デザイン・アート学部	4	180	-	180	-	0.99	0.99	-	-	-	
デザイン・アート学科	4	180	-	180	学士 (デザイン・アート)	0.99	0.99	-	令和8年度	京都府京都市北区等持院北町56番地の1	
大学全体	-	8,194	86	32,438	-	1.07	1.02	-	-	-	

(注)・本調査の対象となっている大学、短期大学及び高等専門学校（以下「大学等」という。）について、既に設置している学部等（短期大学、高等専門学校にあっては学科等）の報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。（大学院、専攻科及び別科を除く）

なお、本調査の対象となっている大学等の設置者が設置している他の大学等の状況については、記入する必要はありません。

・記載項目以外、保護をかけています。不要な行は、「非表示」設定としてください。また、記載する必要がない学校種の記載欄については、「入学定員超過率」及び「収容定員充足率」が0.7倍以下又は1.15倍以上の学科数を記入する項目を「-」とした上で、「非表示」設定としてください。

・学部/学科等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。

※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。

履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。

・本年度A Cの対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。

・「収容定員充足率」には、報告年度における5月1日現在の収容定員数に対する学生数の割合を記入してください。

開設後、完成年度を迎えていない学科等については、開設年度から報告年度までの報告年度における5月1日現在の収容定員数に対する学生数の割合を記載してください。

算出に当たっては、「大学の設置等に係る提出書類の作成の手引（令和9年度開設用）IV.33収容定員の充足状況」をご確認ください。

・「収容定員充足率（控除後）」には、「収容定員充足率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」

第1条第2項により修業年限超過者を控除した場合及び附則第2項及び第4項を適用した場合の控除及び適用後の「収容定員充足率」を記入してください。

なお、「収容定員充足率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除及び適用がない場合には、「-」としてください。

・「収容定員充足率（控除後含む）」は、小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。

また、0.7倍以下又は1.15倍以上の学科については、必ず太字にしてください。当該設定は、学科のみとし、学部及び専攻を太字にする必要はありません。

・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

・「所在地」及び「備考」欄については、セルの結合ではなく、書式設定より設定の上、文字サイズ変更を行ってください。

詳しくは、本シート右に記載のコメント機能で操作方法を案内していますのでご参照ください。

## 6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今 後 の 実 施 計 画
届 出 時 (令和7年)	該当なし		

(注)・「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。以下同様。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。

- ・ 認可時または届出時に付された附帯事項に対する履行状況等の記載に当たっては、以下のとおり記載してください。

**【令和7年度報告書から記載内容に変更がある場合】**

令和7年度報告書の記載内容を転記し文末に「（7）」と記載した上で、変更後の「履行状況」及び「今後の実施計画」を記載し文末に「（8）」と記載してください。

**【令和7年度報告書から記載内容に変更がない場合】**

令和7年度報告書の記載内容を転記し文末に「（7）（8）」と記載してください。

**【令和8年度から新たに調査対象となった学科等又は令和7年度設置計画履行状況調査で付された指摘の場合】**

「履行状況」及び「今後の実施計画」を記載し文末に「（8）」と記載してください。

- ・ 「設置計画履行状況調査結果」には、当該年度の調査の結果、**当該大学に付された指摘を全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的かつ明確に記入**してください。

その履行状況等の参考や根拠となる資料があれば、添付してください。

- ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
- ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査結果」には、当該調査の実施年度の年を記入してください。

## 7 その他全般的事項

### <デザイン・アート学部 デザイン・アート学科>

#### (1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
該当なし	

(注)・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

#### (2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

##### ① 実施体制

###### a 委員会の設置状況

1. 本学では、学部・研究科に共通する教学に関わる事項について審議を行うための全学的機関として、教学委員会を設置している（立命館大学教学委員会規程）。教学委員会は、教学部長が主宰し、各学部・研究科の副学部長・副研究科長・事務長等が出席し、毎年度の各学部・研究科の教学上の総括および次年度計画を策定・承認している。

ここでは、FD活動についても毎年度の方針に基づく総括、次年度計画をまとめている。本学では、FD活動を「建学の精神と教学理念を踏まえ、学部・研究科・他教学機関が掲げる理念と教育目標を実現するために、カリキュラムや個々の授業についての配置・内容・方法・教材・評価等の適切性に関して教員が職員と協働し、学生の参画を得て、組織的な研究・研修を推進するとともに、それらの取組の妥当性、有効性について継続的に検証を行い、さらなる改善に活かしていく活動」と定義している。教育の質的向上のために、各学部・研究科においてFD活動を行うとともに、教学部が主催して教学実践フォーラムや懇談会等を実施し取組を共有している。

2. 全学的には教育開発推進機構（以下「機構」という。）を設置し（「立命館大学教育開発推進機構規程」第2条）、その下に教育・学修支援センター（以下「センター」という。）を置いて、学部・研究科の取組みを支援している（同第4条）。

###### b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

1. 教学委員会は隔週月曜日に実施し、全学部・研究科の副学部長・副研究科長・事務長等が出席している（立命館大学教学委員会規程第3条）。
2. 機構は、日常的運営を行うため、教育・学修支援センター会議（以下「センター会議」という。）を置いている（立命館大学教育開発推進機構規程第10条、第12条）。  
構成員は、教育・学修支援センター長（委員長）、教育・学修支援センター副センター長（副委員長）、教学部副部長（事務局長）、高大連携推進室長、一貫教育部副部長、一貫教育部教育研究・研修センター長、機構所属教員（嘱託講師を除く）、教学部次長、機構長が任命する教職員（以上委員）である。

###### c 委員会の審議事項等

1. 教学委員会（立命館大学教学委員会規程第2条）
  - (1) 教学の基本方針に関する事項（カリキュラム改革、毎年度の開講方針および教学総括等）
  - (2) 学部と研究科に共通する教学および教務事項 等
2. センター会議（立命館大学教育開発推進機構規程第11条）
  - (1) 機構およびセンターの活動方針および総括に関する事項
  - (2) センターが行う事業の基本方針に関する事項 等

## ② 実施状況

### a 実施内容

1. 教学実践フォーラム、FD懇親会（メディア授業を含む）、ツールの学習会の開催
2. 新任教員対象の「新任教員FDプログラム」の実施
3. 授業アンケートの実施、分析、授業改善に関わる担当者と受講生間の意見交換の実施
4. 学びと成長調査の実施、分析を通じた学生実態把握と教育上の課題の共有
5. 「ITL (Institute for Teaching and Learning) News」、紀要『立命館高等教育研究』を通じた教育に関する実践報告や授業研究の共有
6. 教学総括・計画概要の策定、自己点検・評価報告書の作成の支援を通じた教学PDCAサイクルの確立

### b 実施方法

1. 教学実践フォーラム、FD懇親会（メディア授業を含む）、ツールの学習会の開催  
・オンデマンド授業で探る、大規模講義と教育効果の両立、立命館学園コンピテンシー・フレームワークの活用と実践、全学型キャリア教育の実践と教育効果の可視化 等
2. 新任教員対象の「新任教員FDプログラム」の実施  
新任教員を対象として、オンデマンド講義、リフレクション、FDミーティング（教員同士の懇談会）、コンサルテーション等を1年間（最長2年間）実施
3. 授業改善に関わる担当者と受講生間の意見交換の実施  
・個別授業の授業改善、組織的な教学改善、学生への説明責任を目的として、大学全体で統一した書式により授業アンケートを実施。LMSのアンケート機能も活用する。各授業の中盤にLMSの「アンケート」や「掲示板」、「コミュニケーション・ペーパー」等を活用した授業改善に向けた意見交換を実施（希望する教員）
4. 学びと成長調査の実施、分析を通じた学生実態把握と教育上の課題の共有  
・学生の学びと成長調査（アンケート）設計、実施、分析と教学委員会への報告
5. 「ITL (Institute for Teaching and Learning) News」を通じた実践の共有および紀要『立命館高等教育研究』の発行を通じた教育に関する実践報告や授業研究の共有
6. 教学総括・次年度計画概要、自己点検・評価報告書の作成の支援を通じた教学PDCAサイクルの確立  
・「教学総括」や「自己点検・評価報告書」作成の支援

### c 開催状況（教員の参加状況含む）

<令和7年度>

1. 教学実践フォーラムの開催  
・3回開催、約250名が参加
2. 新任教員対象の「新任教員FDプログラム」の実施  
・49名が修了。修了者へは修了証を授与。
3. 授業改善に関わる担当者と受講生間の意見交換の実施  
・授業アンケートは毎セメスター、全授業で実施。アンケート回収率は、春学期が講義系23.7%、外国語43.3%、小集団26.8%、秋学期が講義系18.0%、外国語34.7%、小集団20.4%。
4. 学びと成長調査の実施  
・2016年度より全学生を対象に毎年度調査を実施、2021年度からは大学院生を対象とした調査も実施。「学びと成長レポート」を発刊およびtableau Publicを活用して学内外へ結果を発信。
5. 「ITL (Institute for Teaching and Learning) News」を3回発行し、紀要『立命館高等教育研究』を1回発行。
6. 教学総括・次年度計画概要の作成、自己点検・評価報告書の作成の支援を通じた教育面でのPDCAサイクルの確立  
・教学総括・次年度計画概要に対する総括を、春学期中の教学委員会にて承認・共有。  
・各学部、研究科の要望に応じて教育開発推進機構教員が専門的知見を活かして支援。

### d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

1. 教学実践フォーラムを通じて共有した優れた教育実践を授業改善や学生支援に活用
2. 先進的な教育実践と学部・研究科固有の組織的なFD活動との連携を促進
3. 教員に期待する教育力量の向上および教育活動の促進
4. アンケート結果の分析をもとに学部での授業改善、教育改善の取組に反映
5. 実施結果の分析による教育内容の改善
6. 教育を取り巻く動向や課題、実践事例の共有と普及、教育に関する理論や実践の研究と成果の発信
7. 毎年度の開講方針に基づく点検・評価、次年度に向けた改善課題の明確化、自己点検・評価活動を通じた教育内容や方法の改善促進

### ③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

#### a 実施の有無及び実施時期

・毎年度、各セメスター終盤に実施（授業アンケート）

#### b 教員や学生への公開状況、方法等

・各授業および分野等で分析し、①担当教員には集計結果を掲載した結果個票を返却し、これに対するコメントシートの返却を要請、②学生には結果個票と担当教員から寄せられたコメントシートをオンラインシラバスに掲載（学内のみ閲覧可能）している。また、結果全体の報告書（PDF）をホームページ（学内のみ閲覧可能）に掲載している。

### (3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職学科、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

該当なし

### (4) 自己点検・評価等に関する事項

#### ① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

デザイン・アート学部は、人工知能や仮想・複合現実などのデジタル情報技術の発展を背景に、人間本来の思考と創造性のあり方自体が問い直されるべき社会的要請に応えるために、本学園の根幹である「建学の精神」、「教学理念」、「立命館憲章」に則り、長い歴史と重厚な文化のもとで革新的な知が創出されてきた京都という都市において、フィジカルとデジタルに跨がる知の蓄積と循環機能を戦略基盤に持ち、他者との協働と省察による社会実践活動を通して、美的感性に裏打ちされた「問題解決力」「問い直し力」「共創力」「問題発見力」「創造的思考力」を総合的に身につけながら、職域を問わず多様な社会や組織において豊かな文化・生活世界の新たな形成理念を提案・創造することができる人材を育成することを目的として、設置した。この目的を達成するため、現在までに実施した取り組みは以下のとおりである。

##### 1) 入学者確保

学部紹介パンフレット作成、ホームページ作成、附属校生徒対象説明会の実施、高等学校・入試フェア等の参加・訪問、オープンキャンパスでの学部紹介や模擬授業の実施、新聞・雑誌からの取材受け入れなどを積極的に展開し、本学部の教学内容や入学者受け入れ方針の浸透を図った。定員180名に対して、初年度となる2026年度は志願者数1476名、合格者数286名、入学者数179名（総合型選抜入学試験・外国人留学生入学試験：志願者数344名/合格者数107名、一般選抜入学試験：志願者数1090名/合格者数137名、学校推薦型選抜：志願者42名/合格者数42名）であった。初年度は定員の8.2倍の志願者数を確保することができたことから、一定の広報活動の成果が表れたものと考えている。引き続き、入学試験説明会を実施しつつ、ホームページでの情報発信、パンフレット・リーフレット等の配布を行い、積極的に広報活動を展開し、安定した入学者確保に努める。

##### 2) 入学者選抜

アドミッション・ポリシーで求める資質・能力を有する者を選抜するため、総合型選抜・外国人留学生入学試験・一般選抜入学試験・学校推薦型選抜を実施した。総合型選抜では書類選考および面接を行い、外国人留学生入学試験では日本留学試験の成績での選考および面接、一般選抜入学試験では筆記試験での学力検査、学校推薦型選抜では書類選考を行い、アドミッション・ポリシーへの適合性を評価した。

##### 3) 入学生への履修指導（新入生オリエンテーション）

入学時にオリエンテーションを実施し、学生生活および履修に関する包括的なガイダンスを行った。ガイダンスでは、学部開設の意義を含めた教育の基本理念、人材育成目的、カリキュラムなど、本学部の教育の特色と履修に関する基礎的な事項を網羅的に説明した。また、ガイダンスの実施に際しては冊子状の「学修要覧」および「履修・登録の手引き」を配布し、履修方法の詳細、カリキュラム表、修了要件、カリキュラムマップなど、多岐にわたる情報を提供するとともに、これらに対する学生の理解の徹底を図った。

##### 4) 初年次教育

デザイン・アート学部の教学において、初年次では学部での専門的な学びの基礎となる力の修得を目標とし、プロジェクトへの参画を通して「経験したこと」に対して、自分自身がどのように「意味づけ」（モノゴトの概念化）していくか、その考え方や理論的・実践的アプローチの基礎について学ぶ「Design Studies (DS) 科目群」を履修する。まずは「Design Studies (DS) 科目群」のうち「デザイン学1」および「デザイン学2」は小集団科目としてクラス機能を持たせ、デザイン・アートの学びを構成する4領域（意味・情報・環境・社会）の様々な角度からの知見を得ることでデザイン・アートに関わる学びの基礎はもちろん大学での生活と学修の導入として位置づけ展開している。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

- ・「2024年度自己点検・評価報告書」を令和7年5月に公表済み。

b 公表方法

- ・大学ホームページ上で公表済み。 [https://www.ritsumeai.ac.jp/assessment/self\\_inspection/](https://www.ritsumeai.ac.jp/assessment/self_inspection/)

③ 認証評価を受ける計画

- ・令和14年度に公益財団法人大学基準協会の大学評価を受審予定。

(注)・設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和8年度）

a 公表予定の有無 [ 有 ・ 無 ]

《 a で「有」の場合》

b 公表（予定）時期 [ 調査結果公表後1ヶ月以内 ・ 公表後2～3ヶ月以内 ・ 公表後3ヶ月以降 ]

c 公表方法 [ ウェブサイトへの掲載 その他 ( ) ]

《 a で公表「無」の場合》

d 公表しない理由 [ ]

※設置計画が各大学等が社会に対して着実に実現していく構想を表したものであることに鑑み、

設置計画履行状況報告書については、各大学等のウェブサイト公表するなど、積極的な情報提供をお願いします。